

図書委員会の仕事について

～主食は他人の感想です～ 図書委員会副委員長 電気工学科2年 堀井 雄大

はじめまして。2023年度図書委員会副委員長の堀井です。

私の図書館だよりのお題は「図書委員会の仕事について」だそうですので、今年一年を振り返りながらお話ししようと思います。とは言っても、図書委員会は学生会や高専祭実行委員ほど激務というわけでもありませんので、楽しい出来事が多かったです。



やはり一番印象に残っているのは、前期ブックハンティングで大阪のジュンク堂本店へ蔵書の買い出しにいったことでしょうか。奈良高専の図書委員会には年に2回、ブックハンティングというイベントがあります。クラスごとに図書館に入れてほしい本を応募すれば、応募した本が図書館の蔵書になります。その応募された本を実際に購入しに行くのが我々図書委員会です。

もちろんそれだけでも十分楽しいイベントなのですが、実は図書委員には予算が余ったり、そもそも応募がなかったりした場合、好きな本を予算で購入して蔵書にしてしまえる権限があります。この権限で自分の趣味本を蔵書にして、書架に並んでいる様を見てニヤニヤしたり、布教したりするのが、ブックハンティングの真の楽しみです。

本好きというものは自分の好きな本をよく布教します。これはもちろん面白いものを共有したいという願望の表れでもありますが、実はほかの理由もあります。「感想を食べるため」です。

よくあるたとえで「記憶を消してもう一度読みたい名作」などという例えがありますが、現実ではそんなことはできません。だから我々は他人がその作品を鑑賞して抱いた感想を聞いて食べることで、当時の感動を体験するのです。

そんな本好きの願望をかなえる仕事ももう一つあります。それは「福袋プロジェクト」です。長期休みの時に本を読んでもらうため、図書委員が蔵書で福袋を作って、普段自分で選ばない本を読んでもらうプロジェクトです。布教を正々堂々とできるのでこれも楽しい仕事でした。

このように図書委員会の仕事は楽しみでしかないのですが、もしこれを読んでいる方で、委員会を何にするか考えている方がいらっしやれば、ぜひ図書委員会にお越しください。



新蔵書検索サイトの紹介（その1）

昨年3月に図書の有無や排架場所などを検索する蔵書検索サイトがリニューアルされましたのでご紹介します。（新蔵書検索サイト <https://libopac-c.kosen-k.go.jp/webopac30/>）



新蔵書検索サイト

本の魅力について

～私の思う「本」の魅力～

物質化学工学科5年 原 朱眸

みなさんは、「本」になにかしらの思い出があったりしませんか。「本」と言ったら、小説や漫画、図録や絵本などその種類は様々ですね。私は、小さい頃に初めてインフルエンザに罹患し不安だった時、外に出られない私のために母と祖父が買ってきてくれた「小説」がとても面白くて心が少し穏やかになったのを覚えています。

先日、家を整理していた際、その時の本が出てきました。大人になった今、改めて読んでみると、当時とはかなり違った解釈が出来て、年齢と心の状態に寄っても感じ方がやはり違うのだと気付かされました。意外と一度読んで結末を知ってしまったらもう同じものは読まないという人が多いかと思えます。しかし、改めて読み返すと新たな発見があったり、その時の自分の悩みに対する道標になってくれるかもしれません。ある時、本に感情移入して涙することがありました。登場人物に共感するとか、嫌悪するとか賞賛するとか色々ありますが、私の場合、ほぼ2次元に近いほど情景がせまってくるのです。そして、ただひたすらに、その時思いついた事を箇条書きで書き出してみました。後で読み返してみると、それは自分が書いたとは到底思えないような、不思議な感覚を覚えさせたのです。私はこの時、本が、「自分ではない自分の新たな一面」を創り出してくれたのだなという風に感じました。また、これが自分的には本の最大の魅力だとも思います。その後、読書感想文等を述べる機会が多くなりましたが、その時の事を思い出し、自分の心が動いた経験を頼りに述べることに楽しさを覚えるようになりました。

最近では、友人にお勧めの作品を教えられることもあり、新たな作品を発掘する事を楽しんでいきます。また、目当ての漫画の発売日に本屋に出向いたりする際に、必ず店員さんのお勧め小説コーナー等を確認してから帰るのが楽しみの1つでもあります。本を読むことが苦手であったり、中々自由時間が無くて読めない人はいると思います。無理に本を読んで本と向き合う時間を作ればいいのには思いません。ただ、夏休みの課題で課される読書感想文を書く際だけでも、少し真剣に向き合ってみることをお勧めしたいです。

そして、私は、これから自分の人生で1番心に響く本を探し求めたいと思っています。



新蔵書検索サイトの紹介（その2）

著者名や書籍名を入力し検索すると、これまでと同様、排架場所、貸出状況などが表示されます。リニューアル後の新機能としては右図のとおり、図書の表紙画像が表示され、その画像にカーソルを合わせると、さらに大きく表示されますので、とても見やすい検索サイトになりました。

